



NHO Nishigunma National Hospital

ウイズ

— No.68 —

平成24年10月(2012年)

編集 独立行政法人 西群馬病院
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030

FAX 0279-23-2740

E-mail: nishigun@nng.hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~wgunma



伊香保まつり

文豪徳富蘆花の命日にあわせ開催し、御輿を担いで石段を上っていく勇壮なお祭りです。

独立行政法人
国立病院機構

西群馬病院の基本理念

患者さまと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質(QOL)を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 地域医療支援病院として、地域医療に貢献します
6. 健全な経営と適正な運営に努めます

目次

- * 「渋川へそ祭り」に初参加! 1
- * 平成24年度「ふれあい看護体験」を開催して 2
- * 中学生職場体験学習レポート 3
- * 平成24年度職員互助会総会・納涼会について 4
- * 研修会報告 5

シリーズ

- * 診療科紹介 6
- * 健康シリーズ 7
- * 重症心身障害児(者)病棟だより 8
- * 医療安全管理室だより 9
- * 栄養管理室だより 10
- * ボランティアだより 11
- * ICT部会だより 12
- * 地域医療連携室だより(地域医療機関の紹介) 13
- * がん相談支援センターのお知らせ 14
- * 診療方針・看護の理念 15

「渋川へそ祭り」に初参加！

管理課長 古川 佳直



群馬県渋川市が日本の真ん中（へそ）にあたるということで、渋川市が毎年7月に開催している、お腹に顔を描いて踊るはら踊りが名物の「渋川へそ祭り」に参加しました。

当院は既にご存じのとおり、渋川総合病院との再編統合に伴う新病院の整備が決定されたことにより、渋川地区および北毛地域（吾妻・利根・沼田）の地域医療を担う中核的病院としての役割が期待されることとなりました。

再編統合で注目されるなか、当院としても3年後のオープンに向け渋川市の行事・イベントに積極的に参加し、市民や市とのパートナーシ

ップを醸成していくことが今後ますます重要になっていくものという認識に基づき、初めて参加することになりました。

当初は、初参加ということで準備や踊りなど戸惑うことも多くありましたが、渋川へそ祭り実行委員会のご指導を仰ぎつつ、へそ祭りへの理解に努めるとともに職員の積極的な協力を得られたことにより、最終的には、はら踊り12人（男性）、浴衣踊り26人（男性5人、女性21人）の総勢38人の参加者を募ることができました。

7月28日（土）午後5時、いよいよ第29回日本のまんなか渋川へそ祭りのパレードがスタートです。梅雨が明け連日の猛暑のなか、延べ5万人の人出で会場は賑わい、祭り会場は熱気に包まれ大いに盛り上がりました。

「へそ祭りパレード」には29団体、約938人の踊り手が参加し、「へそ出せ、よいよい」の音頭で自慢？のおなかや浴衣踊りが披露されました。

午後5時のスタートから7時までの2時間、休憩を挟んで踊り続けた結果、お腹のペイントは

汗で流され、跡形もなくなってしまいました。充実感と疲労感に満たされ、当初の不安は何処へ、まさしく案ずるより産むが易しの心境になりました。

また、渋川市のはからいで西群馬病院チームと渋川総合病院チームの踊る隊列の順番を繋げていただき統合病院チームと一緒に踊ることになり、3年後の再編統合に向け、市民の皆様への良いアピールとなりました。



平成24年度「ふれあい看護体験」を開催して

副看護部長 佐藤 るみ子

平成24年8月3日、当院で毎年恒例になっている「ふれあい看護体験」を開催しました。厚生労働省が“看護の心、助け合いの心をすべての人々が分かち合う”ことを願い、5月12日を「看護の日」と制定してから、その一環として日本看護協会が「ふれあい看護体験」を推進してきました。目的は、保健・医療・福祉施設が地域の人々に広くドアを開き、これからの保健医療福祉について考えたり、患者さんとのふれあいを通して、看護の理解や関心を深めてもらうためです。

今年の参加者は、高校生15名(女性14名・男性1名)でした。参加校は3校で、県立高崎北高校、県立高崎東高校、県立渋川女子高校です。学年は、

1年生4名、3年生11名でした。中には毎年参加し、2回目、3回目という学生が数名おりました。看護体験内容としては、血圧測定、車椅子患者さんの付き添いや散歩、患者さんとの会話、足浴などです。白衣に着替え、髪の毛が肩に触れないようにしっかりとヘアピンで整えると、はじめは緊張している様子が伝わってきましたが、現場の看護師や患者さんと接するうちに表情が柔らかくなり、真剣ながらも嬉しそうに行っていました。上毛新聞社が取材に来て、体験場面の写真の撮影やインタビューを行っていきましたが自分の考えをしっかりと、力強く答えていました。

体験終了後、一人ひとりに感想を語ってもらったところ、「ほんの一部の体験だったけど、患者さんとコミュニケーションをとりながら作業するのは大変でした。」や、「看護師の仕事は注射などの技術だけでなく、患者さんのことを思いやりながらコミュニケーションをとることが大事なんだとわかりました。」「看護師だけでなく様々な人たちが一緒になって連携することによって一つの病院が成り立っているということを学びました。」など、短い体験時間の中で最も大切なことに気がついた学生もおり、感心しました。と同時に将来が楽しみになりました。また、最後に記入してもらったアンケートには、「看護師は多くのことをやっていて大変そうな職業だけど、とてもやりがいのある職業だと思いました。」や、「体験した病棟だけでなく、病院全体の雰囲気も良く、将来はこんな病院で働きたいと思いました。」「看護師になりたい気持ちが強まりました。」などの意見が寄せられ、進路を選ぶにあたり今回の体験が「参考になった」「大変参考になった」と全員が答えてくれたことは、私たち自身の喜びとなり、純粋なパワーをもらうことができました。

今後も一人でも多くの学生に興味・関心を持ってもらえるよう、医療に携わることは自己の成長に繋がることや看護の魅力について、伝えられる機会を提供していきたいと思えます。



少しの緊張と笑顔の参加者

中学生職場体験学習レポート

庶務係長 和久井 研司

8月29日（水）から8月31日（金）までの3日間、中学生の職場体験学習を実施しました。これは毎年夏休み明けに市内の各中学校が教育活動の一環として各企業に実習依頼をして行っているもので、今回当院は伊香保中学校の2年生の男子生徒さんを1名受け入れました。

「将来の夢は医者になること」という学生さんに、まずは院内の各部署を案内しました。学生さんは、広い院内を一通り巡りながら、病院には、医師、看護師のみならずいろんな専門職種の人達が、様々な現場で働いていることに驚いている様子でした。薬剤師・検査技師・放射線技師・理学療法士・作業療法士・栄養士・調理師・ソーシャルワーカー・児童指導員・保育士・看護助手・ボイラー技師・事務職員……。おぼえきれない職名を、学生さんは一生懸命ノートに書き写していました。初日の午後からは、薬剤科で薬剤師から薬についていろいろな説明を受けたり、薬の模擬調合をさせてもらったりしました。2日目の午前中は、検査科で、がん細胞やウイルスを実際に見たり血液型の検査を実習させってもらったりしました。また病理の医師に付いて実際の仕事を見せてもらいました。午後は放射線科でさまざまな撮影装置を見せてもらい、患者役となって実物の機器にのってみたいりました。また放射線技師や放射線科医師の実際の仕事を見せてもらい、放射線治療や画像診断についていろいろな説明をしてもらいました。3日目は栄養管理室で入院患者さんの食事を作っている現場を見たり、食品の検収風景や栄養士の仕事を実際に見ることができました。また、理学療法士さんに付いて病棟で実際に患者さんにリハビリテーションを行っているところを見せてもらったり、運動器等の身体機能について説明してもらったりしました。

実習の3日間とはとにかく盛りだくさんで、多くの専門分野の人達とふれあい、実際の仕事を見ることができました。何より、病院というところは医師を中心に多様な専門職種の人達が話し合い、協力しながら仕事をしているという場面が見られたので、学生さんにとって大変意義があったと思います。

仕事におけるチームワーク、コミュニケーションの大切さを知ってもらうことが出来ました。

3日間の職場体験学習を終え最後の帰り際に、「食品会社などの見学と違ってお土産はないけど……。」と私が言うと、学生さんは「そんなものよりも、この病院で体験した事の方が断然面白くてよかった。」と目を輝かせていました。

学生さん、この体験を糧に立派なお医者さんになってください。新病院で待ってます。



平成24年度職員互助会総会・納涼会について

庶務班長 丸橋 光明

海の日を含めた3連休も過ぎ、連休ボケや連日のうだるような暑さを吹き飛ばせとばかりに7月18日（水）、毎年恒例の職員互助会総会・納涼会が渋川アネーリにて開催されました。当日は全職員の約3分の1にあたる122名の職員が参加しました。

まずは職員互助会総会で、平成23年度の決算報告及び平成24年度の予算案の承認ののち、斎藤院長の新病院にかける熱い思いを感じさせるスピーチで納涼会はスタートしました。学会で不在の蒔田副院長に代わり、渡邊統括診療部長発声の乾杯の後は、テーブルのあちらこちらで談笑やお酒を酌み交わす声が聞かれました。

会の中盤ではメインイベントのビンゴ大会が開かれましたが、司会の氏田放射線科医長と荒木薬剤師がB.B.クィーンズ (!!) に扮して「踊るポンポコリン」を歌いながら登場、最初はあっけにとられていた職員も、夫婦漫才のような掛け合いに、大爆笑の連続でした。

また、ビンゴの景品はディズニーペアチケットをはじめとする豪華賞品多数とあって、このときばかりは皆、飲食を中断して、ビンゴの用紙とスクリーンに映し出される数字を見比べ、リーチやビンゴになった時の歓声や、お目当ての景品が他の人に取られた時の悲鳴、司会の軽妙なトークで多いに盛り上がっていました。

同じ病院の職員とはいえ、普段はあまり接点の無い職種の方々と友好を深め、お互いを理解し合うことで、職員の連帯感や団結力を高める良い機会であり、非常に有意義な2時間だったと思います。

なお、納涼会は7月の第3水曜日の固定日となっておりますので、都合により出席出来なかった職員の方は今のうちから予定に入れておいて下さい。

来年もきっと楽しい会になりますヨ。



研 修 会 報 告

●幹部看護師(看護師長等)管理研修Ⅰに参加して●

医療安全管理係長 星野 まち子

私は、去る7月10日から27日に行われた「平成24年度幹部看護師（看護師長等）管理研修Ⅰ」に参加させて頂きました。研修内容は講義とパネル討議です。パネル討議を実践する過程において学んだ事は、言語の共通認識の大切さです。人はそれぞれ価値観が違う為、黙っていれば理解し合えません。お互いの思いが理解し合えないと、その組織に“歪み”や“亀裂”が生じます。現在、私は医療安全管理室勤務を命ぜられており、ヒヤリ・ハットや有害事象が発生してから現場に向か

う事が多くなっています。しかし、今回の研修を受け、問題が起きてから現場に向かうのではなく、普段から職場の現状を把握し、職場の雰囲気を感じとり、必要であれば、部署間・部門間で話し合う機会を持てる様、積極的に働き掛ける事が大切であると気付かされました。管理者として必要な知識・技術を身に付ける事の大切さを学べた研修でしたので、これからは実践に移して行きたいと思います。

●個人情報保護研修●

12病棟副看護師長 林 由加子

平成24年7月9日に国立病院機構本部で行われた個人情報保護研修に参加しました。個人情報の漏えい・流出事故を防止するために、個々の職員に対する個人情報保護の意識の啓発を図ることを目的として行われました。

講義は導入編、法令編、事例・事故対応編からなっており、具体的な事例を交えながら、とても理解しやすい内容でした。USBメモリの紛失事例がとても多く、誰でも漏えい事案の当事者になってしまう可能性があるということに怖さを感じました。USBメモリは、情報量が多く入れられ、持ち運びに便利であり、日頃から私たちも頻繁に使用しています。個人情報漏えい事故なんて自分には関係のないことだからと思うのではなく、漏えい事故

を防ぐために職員一人ひとりがルールを知り、きちんと守る必要があります。個人情報の取り扱い方法の徹底や保管内容の再確認の必要性、パスワード設定の重要性を再認識し、自己の行動を振り返る良い機会になりました。



放射線科医長 松浦 正名

西群馬病院の放射線科では画像診断医1名、放射線治療医1名、診療放射線技師8名で診療を行っています。近年放射線検査、放射線治療ともに看護師の役割が重要になってきています。当院では患者さんが持参した他院の画像データを2名のmedical assistantが画像サーバーに取り込んでくれ、モニター上で他院の画像検査を参照することが可能になります。また院外に紹介する場合の当院のX線画像もmedical assistantがCD-ROMに取り込み用意しています。

当院では2010.8月にX線テレビCUREVISTA(日立メディコ)、2011.12月にポータブルX線撮影装置(島津製作所)が更新され、2012.9月にCTが更新されます。放射線治療件数は全国的に年々増加しており、当院においても2011年度が過去最高でした。国立病院機構144病院の中で2011年5月の1か月間の調査において、放射線治療件数は多いほうから10番目、放射線技師一人あたりの放射線治療件数は3番目でした。

2012年度の診療報酬改定にて「外来放射線照射診察料」が新設されました。

これは外来放射線治療に関して、看護師や診療放射線技師等のチームによる毎回の観察を評価したものです。その施設基準として経験5年以上の放射線治療医がいること、専従看護師及び専従診療放射線技師が各1名以上いること、放射線治療機器の安全管理、保守点検及び安全使用のための精度管理を専ら担当する経験5年以上の技術者1名以上がいることが要件ですが、当院は基準を満たしています。今後ますますチーム医療の重要性が増してくると思われま

す。渋川総合病院との統合により2015年度の開院をめざして新病院の設計段階にあります。放射線分野でも装置やマンパワーをさらに充実させて、診療の質の向上に向けて努力していきたいと存じます。

がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けてみませんか。

検診の種類

★肺がん検診（CT、喀痰細胞検査） 費用 10,000円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合7,000円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診）費用 15,000円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1.肝炎検診（2,000円（消費税込み））2.糖尿病・高脂血症検診（1,000円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

地域医療連携室 電話0279-23-3294

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定

我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

内科医長 小林 剛

がんの痛みは、患者さんの言葉や表情でしかわからないものです。患者さん自身が痛みを正確に伝えることで初めて「がんの痛みの治療」は始まります。「がんの痛みは我慢するもの」「痛み止めを長く使うと体に悪い」「痛み止めを使いすぎると効かなくなる」「副作用が多い」「寿命が短くなる」といった誤解や偏見が未だにあります。しかし、痛みを止めなければ、がんの治療に向き合うことも、人間らしい気持ちを持つことができません。**がんの痛みは治療できる症状であり、治療すべき症状です。**

がんの痛みを我慢したまましていると、眠れなかったり、食欲がなくなったり、前向きな気持ちで生活することができなくなったりすることがあります。そうするとQOL（生活の質）は低下し、日常生活をあなたらしく過ごすことができなくなります。がんの治療と並行して、がんの痛みの治療を行うことで、気持ちが和らいで、痛みのためにできなかったことができるようになり、いつも通りのあたりまえの生活が送れるようになります。世界保健機関（WHO）は「患者には痛みをコントロールするために十分な鎮痛薬を要求する権利があり、医師にはそれを投与する義務がある」といっています。たとえば、痛み止めを使っても痛みがひかないときがあれば、遠慮せずに痛みを伝えてください。あなたが痛みを伝えようという気持ちを持ち続けていれば、医療従事者はあなたを理解して、対応してくれます。そのためには、まずあなたの痛みを正確に伝えることが大切なのです。

痛みはあなたにしか分かりません。我慢せずに主治医に伝え、痛みを取り除く治療をすることが、がんに向き合いながらその人らしい生活を送るためにも、また、がん自体の治療を行っていく上でも、とても重要といえます。

ご案内

第11回市民公開セミナー
開催について

- 日時 平成24年11月4日(日)
- 場所 アネーリ渋谷 渋谷市金井1298
- テーマ 『未定』
- 第一部 がん無料相談、健康測定と健康相談会
- 第二部 講演

入場無料

多数ご参加
ください。

重症心身障害児(者)病棟だより

ひと夏の思い出

<小児グループ活動を開始>

保育士 田村 達也

重症心身障害病棟には3歳から15歳までの児童が5名入所しています。発達支援の一環として児童だけのグループを編成してこの夏休みに多彩な活動を展開しました。

グループのネーミングは、甘酸っぱい・爽やか・元気をイメージして**オレンジ**と名付けました。今年の夏は、例年にも増して厳しい暑さでしたが、**オレンジグループ**の5名は、夏の太陽にも負けないくらいキラキラと輝いていました。活動は、保育士が作詞作曲した「仲よしオレンジ」の歌をうたい、一人ひとりの名前を呼ぶところから始まります。自分の名前を呼ばれると頭や目、手足を動かして大きな声で返事をしてくれます。

輪になったロープをみんなで持って始まり



エアートランポリン



ボールスライダー、プラットホームスイング、プール水遊び、トランポリンなど体を動かす感覚遊びを次々と展開して楽しく活動しました。学齢児は養護学校の夏休み中でエネルギーをもてあましているため、一つひとつの活動に積極的に参加していました。今回の活動をスタートとして、これからも年間計画の中でオレンジグループ活動を計画して発達支援の一助にしていきたいと思います。

プラットホームスイング



ユランコ



ボールスライダー



プール・水遊び



<夏のイベント：在宅障害児者とボランティアの交流キャンプに参加して>

保育士 小板橋 由江

在宅の障害児者と中高生のボランティアの交流を目的とした群馬県重症心身障害児(者)守る会主催の「交流キャンプ」が8月25日～26日、筑波山温泉で行われました。この催しは今年で20回目です。毎年、当院の療育指導室へ支援の協力要請があり、今年は私が派遣されました。

当日は10人の障害児者とそのご家族、そして中高生や施設職員約30名のスタッフが参加して賑やかな雰囲気の中、バスに分乗して群馬を出発しました。お昼には茨城の那珂湊のおさかな市場に到着。広大な海を目の前にして参加者は瞳をキラキラと輝かせ、「わあ、綺麗ねえ」「海に来たのなんて30年ぶり」などと会話も弾んでいました。昼食は新鮮な海産物をいただき、アクアワールド大洗水族館も見学しました。夜はホテルで温泉に入り、夕食交流会を楽しみました。入浴介助は施設職員の出番であり、私も一緒に介助しながら参加者と交流することができました。2日目は益子焼などを見学しながら無事群馬へ到着しました。

私は、この会に参加し、在宅における障害児者の生活の状況や、そのご家族の介護の実態など伺い、参加者の秘めた力強さと在宅の方々の気持ちを少しでも理解することができました。当院も短期入所を実施していますので今後も在宅の方々との交流を深め、今回の参加で得たものをこれからの仕事に生かしたいと思います。



医療安全管理室だより

医療安全管理係長 星野 まち子

早いもので、医療安全管理室勤務となり半年が過ぎました。毎日報告されるヒヤリハット・有害事象事例と格闘しながら、時間だけが刻々と過ぎて行きます。

このような状況の中ですが、まずは、ヒヤリハット・有害事象報告書の内容と、院内にあるマニュアルの内容を比較し、マニュアルの内容に不足があるもの、改訂が必要であると感じるものについては、院内の部会や委員会に問題提起して改善に向けた検討ができるようにしています。この半年間で、「輸血を拒否する患者への対応」「医療安全管理マニュアル：チューブ管理・救急カート整備管理手順」の改訂を行いました。現在は、「輸血マニュアル：休日に予定されている輸血の実施手順」「医療安全管理マニュアル：AEDの管理」「化学療法マニュアル」「検査手順（看護部）：胸腔ドレーン」の内容について検討中です。しかし、マニュアルの作成や改訂が済んでも、その内容が関連職員に周知徹底されなければ同様のヒヤリハットが発生します。そのような事が無いよう、今後も、積極的に職場をラウンドしながら、職員一人ひとりの認識と行動を確認して行きたいと思います。

また、ヒヤリハット・有害事象報告数を（表1）に示しました。今年度8月までの報告総数は335件であり、1ヵ月平均67件です。昨年度は1ヵ月平均が61件でしたので、6件ほど多くなっています。「それだけ医療安全に対する職員の意識が高くなっている」と根拠づけたい所ですが、そう単純ではないようです。先日、事例分析を行う為に職場を訪問して職員に確認したところ、部署によって報告内容に差が生じている事に気付きました。例えば薬の準備をしていて、残っている下剤の数が合わないという事でヒヤリハット報告する部署もあれば、残数が合わない事に対しては特に報告していない部署もありました。橋本1)は「ヒヤリハット報告制度が適切に運用されていれば、少なくとも1か月にベッド数の3分の1、年間ベッド数の4倍の報告を見積もりたい」「その数に満たない場合、提出されていない事例が相当数あると考える必要がある」と述べています。当院は380床ですので、月あたり126件、年間1520件の報告数が必要と言う事になります。前述したように、職場によって報告している内容に差が出ている現状を踏まえつつ、部署や職種に関係なく、職員誰もが同じ視点で事例報告ができるような報告書のあり方についても考えて行かなければならないと感じています。

平成22年度から平成24年8月までのヒヤリハット・有害事象報告月別件数 (表1)

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
22年度	62	58	60	71	53	72	52	45	52	49	52	53	679
23年度	53	40	72	77	57	56	58	67	85	58	57	56	737
24年度	53	57	73	70	82								335

引用文献

1)橋本廸生 監修:医療事故を未然に防止するヒヤリハット報告の分析と活用,メジカルフレンド社,2002.

栄養管理室だより

～食欲の秋にきのこを添えて～

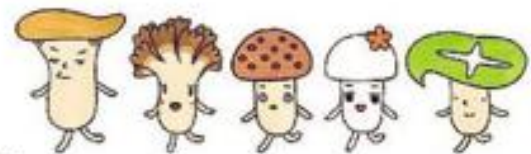
管理栄養士 伊東 祥幸

厳しい暑さが去り、食欲が増す今日この頃・・・食欲の秋を迎えました。様々な食べ物が旬を迎える中で、今回は《きのこ》についてご紹介したいと思います。

きのこは、カビや酵母などと同じ菌類に属する生物の一群で、菌糸が集合して胞子をつくるための大型の組織（子実体）を形成するものです。

様々な種類のきのこのなかで、しいたけ・えのきたけ・しめじ・まいたけ・なめこ・マッシュルームなどが季節を通じてよく見かけるものがありますが、秋に出てくる物としては、まつたけが有名です。人工栽培が難しいことによる希少価値の高さもあり、価格への影響も大きくなりますが、秋を感じる一つの食材と言えます。

栄養として共通することは、食物繊維が多く、低カロリーであるため、便秘解消に効果的であり、いつもの食事に加える事で、かさを増やして満足感を得られやすくなることができます。また、きのこにはビタミンDを多く含むものも多く、カルシウムの吸収を促進する働きがあるため、カルシウムの多い食品と組み合わせると良いでしょう。



家庭に身近な存在であり、だしとして良く使用されるしいたけは、旨みの成分であるグアニル酸を多く含み、昆布のグルタミン酸と鰹節のイノシン酸とで3大旨味成分と言われます。グアニル酸は、グルタミン酸と混ざる事でうま味が増すため、しいたけと昆布の組み合わせが美味しい理由と言えます。これらのだしを活かすことは、塩や醤油といった調味料を抑えることができ、減塩にも効果的です。

このような効果のあるきのこを食卓に添えて、つい食べ過ぎがちになるこの季節を上手に乗り切りましょう。

料理のご紹介

カルシウムをプラスして・・・

- ・きのこのミルク煮
- ・きのこのクリームグラタン
- ・小魚ときのこの炒め物

秋を感じるメニュー

- ・きのこ栗の炊き込みご飯
- ・きのこ秋鮭のチャンチャン焼き



ボ ラ ン テ ィ ア だ よ り

医療福祉相談室 山田 尚子

8/8（水）緩和ケア病棟の「夏祭り」が開催されました。毎年、この時期にボランティアさんが中心となり、開催をしています。

今年は、上州尾根下連八木節保存会のみなさんによる八木節を披露していただきました。夏休み中のお子さんも一緒に来て下さり、笛と太鼓にあわせて八木節を踊って下さいました。続いて、ゆかた姿で参加をしてくださった埼玉医科大学の看護学生のみなさんと、盆踊りをしたり、手拍子で参加したりと患者さま・ご家族様・ボランティアさん皆で、楽しい時間を過ごすことができました。

その後、「ヨーヨーつり」「かき氷」「綿菓子」の出店をボランティアさんにご協力いただき、患者さまやご家族様は、ご自身でヨーヨーを釣ったり、ボランティアさんや職員と一緒に釣ったりと笑顔がこぼれる場面が伺えました。

最後にみんなで冷たいかき氷を食べながら談笑し、この夏の暑さも忘れ、楽しく夏祭りを終えることができました。これも猛暑の中、ご協力いただいているボランティアさんのおかげであり、本当に有り難く感謝いたしております。



緩和ケア病棟では、毎月季節的な行事を行い、ボランティアさんたちが職員と一緒に企画・運営を下さっています。

その他にも、緩和ケア病棟の中庭のお手入れや患者さんお話相手や散歩等、お手伝いをして下さっています。ご協力いただけます方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡下さい。

西群馬病院 医療福祉相談室 担当者 山田・山浦 ☎0279-23-3030

ICT部会 だより

バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 臨床研究部長 澤村 守夫

バンコマイシン耐性腸球菌は、バンコマイシンに耐性を獲得した腸球菌である。健常者の場合は、腸管内にVREを保菌していても通常、無害、無症状であるが、術後患者や感染防御機能の低下した患者では腹膜炎、術創感染症、肺炎、敗血症などの感染症を引き起こす場合がある。1980年代前半に欧州で最初に分離され、以後、欧州、米国などで急速に拡大している。国内でのVREの分離は未だ少なく、適切な対策や行政的施策などを実施するため、その全数を把握する事が不可欠となっている。2012年8月29日に開催された第22回北関東病院感染対策懇話会で県内でのVREアウトブレイク事例に関する講演が行われ保菌調査、群馬県衛生環境研究所でのバンコマイシン耐性遺伝子検査、群馬県ICD連絡協議会による外部調査内容が報告された。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症	
発生状況	重症患者、免疫不全(悪性腫瘍患者、移植患者)、白血球減少、手術後、透析、カテーテル留置、長期入院患者がハイリスク 大規模病院、老人・新生児医療施設で、セフェム系・グルコペプチド系抗菌薬処方が多い施設はハイリスク
臨床症状	潜伏期不定 約90%は無症状キャリア 易感染者で発症 発熱、疼痛、局所からの濃汁、心雑音 腹腔内感染症、尿路感染症、心内膜炎、敗血症、骨盤内感染症、髄膜炎を起こし、まれに重症化
検査	診断のポイントは、検体からのVREの分離、コロニーゼーションか感染症の別を鑑別、バンコマイシン感受性試験を実施。監視培養には、バンコマイシン6mg/L含有のエンテロコッカセル寒天培地やVREスクリーニング培地などを使用→耐性遺伝子確認
バンコマイシン耐性腸球菌	バンコマイシン耐性腸球菌はVanAプラスミッドをもち、これはペプチドグリカン細胞壁前駆体末端でd-アラニン-d-アラニンではなくd-アラニン-d-乳酸を合成するタンパクをコードする。末端のd-アラニンを失うとバンコマイシンやテイコプラニンの細菌への結合は著明に減少し、突然変異細菌が生き延びこれらの抗生剤の存在下でも生育する。別表参照。
感染経路	接触感染 患者と医療器具及び直接接触により汚染した手指や衣服によって媒介 糞口感染(腸管感染) 患者の腸管から排泄され、トイレ便座、ドアノブ、洗面所を介して伝搬
行政対応	5類感染症・全数把握 7日以内に指定の届出様式により保健福祉事務所に届出 VanA型、VanB型、VanC型によって報告基準が異なる
拡大防止	専用トイレ浴室にある個室へ隔離する。入室時には手袋・ガウンを着用。 手洗いを頻繁に行う。 患者ごみは、すべて感染性廃棄物とする。 リネンの回収も患者接触時に実施し、ビニールバック袋に入れ密閉して洗濯に出す。患者退室後は十分に洗浄後、塩素系消毒薬で環境表面をトイレ浴室を消毒する。 院内で発生した場合は、スタッフと患者の監視培養を行い、早期に対策を実施。 患者の移動は最小限にすべきであり、転院の成否は保健福祉事務所に相談する。
治療方針	アンピシリンの感受性によって治療方針が異なる

バンコマイシン耐性腸球菌 Vancomycin-Resistant Enterococci (VRE)

クラス	獲得耐性						内因性耐性
	VanA	VanB	VanD	VanE	VanG	VanL	
遺伝子	vanA	vanB	vanD	vanE	vanG	vanL	vanC
MICバンコマイシン	16-1000	4-1000	64-128	8-32	16	8	2-32
MICテロコプラニン	4-512	0.5-1	4-64	0.5	0.5	S	0.5-1
耐性誘導	あり	あり	なし	あり	あり	あり	なし/あり
遺伝子局在	プラスミッド/染色体	プラスミッド/染色体	染色体	染色体	染色体	染色体?	染色体
伝達性	あり	あり	なし	なし	あり	なし	なし
菌種	E. faecium E. faecalis E. durans E. hirae E. gallinarum E. casseliflavus E. raffinosus E. avium E. mundtii	E. faecium E. faecalis E. durans E. gallinarum	E. faecium E. faecalis E. raffinosus	E. faecalis	E. faecalis	E. faecalis	E. gallinarum: vanC1 E. casseliflavus: vanC2/3

地域医療連携室だより 地域医療機関の紹介

とまるクリニック 院長 都丸 政彦

とまるクリニックは、渋川吾妻線(通称日陰街道)から少し脇に入った、渋川阿久津線沿いにあります。渋川市金井に平成18年12月開院し、今年6年目となります。診療科目は、泌尿器科、内科、外科、皮膚科、アレルギー科、リハビリテーション科を標榜しております。

私は、渋川市金井生まれで、地元小、中、高を卒業しました。山形大学に学び、卒業後同大泌尿器科講座に入局、東北地方の病院で研修・研鑽しました。恩師教授の退官時に大学医局を離れ、その後、北海道の民間病院(300床)で5年勤務のうち、地元にて開業した次第です。病院勤務時は、泌尿器科医として働いておりました。月4回夜間救急当直をし、外科、整形外科での緊急手術などには積極的に参加しました。診療連携が叫ばれるころ、落下傘のごとく地元開業した次第です。

地域医療の連携については大変ありがたく感謝しております。特に、西群馬病院による合同講演会や呼吸器研究会には、できる限り参加させていただき、勉強させていただいております。西群馬病院は

がん拠点病院であり、当院からも多数患者さんを紹介させていただき、治療をお願いしております。肺がん、悪性リンパ腫、胸腺癌などの癌疾患、直腸癌や大腿ヘルニア陥頓の緊急手術で大変お世話になりました。また、詳細な診療情報提供を画像等も含めてレスポンスよく送っていただき、後日、再検討することができ感謝しております。

診療所の立場からは、病院医師が疲弊しないよう、時間外や緊急入院などのないよう患者さんの見極めと、できる限りのスクリーニングに努めてまいります。在宅での往診にも当院でも積極的にかかわっていこうと思っております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

とまるクリニック
〒377-0027
渋川市金井599-1
TEL 0279-26-7711
泌尿器科、内科、外科、皮膚科、
アレルギー科、リハビリテーション科



都丸院長



とまるクリニック全景

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

ご相談方法

- **がんに関する相談**は「**がん相談支援センター**」でお受けします。
担当: ソーシャルワーカー(尾方・山田・山浦)
電話: **0279-23-3294**(地域医療連携室)・0279-23-3030(代表)
(受付時間は平日9:00~17:00です)
- **メール相談**は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail : nishigun@nng.hosp.go.jp

各種がん分野の相談日時

(電話・窓口相談は予約制です。相談は無料です。窓口相談はお一人30分以内でお願いします。)

	分野	相談員	電話相談				窓口相談				メール相談
			曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	
1	肺がん	斎藤 龍生	火	10:00~12:00	木	10:00~12:00	月	15:00~15:30	水	15:00~15:30	月から金
		富澤 由雄				火	13:00~14:00	金	13:00~14:00	月から金	
		川島 修				木	9:00~10:00			月から金	
2	乳がん・甲状腺がん	横田 徹	水	14:30~16:30	金	13:00~14:00	水	14:00~16:30	金	13:00~14:00	月から金
3	食道・胃・大腸がん	小林 光伸	金	13:00~14:00			金	13:00~14:00			月から金
4	肝臓・胆・膵がん	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金
5	血液・造血器がん	澤村 守夫	月	13:00~14:00							月・火・水
6	緩和ケア(ホスピス)	小林 剛	火	13:00~14:00			火	13:00~14:00			月から金
7	その他(1~6以外)	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金

*メール相談の受付時間は、9:00~17:00

セカンドオピニオン担当医表

科別	予約時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時~	-	富澤 由雄	-	-	-
	午後3時30分~	斎藤 龍生	-	斎藤 龍生	-	-
呼吸器外科	午前中	-	-	-	川島 修	-
血液内科	午後2時~	澤村 守夫 松本 守生	-	-	澤村 守夫 磯田 淳	-
乳腺・甲状腺科	午後2時30分~	横田 徹	-	横田 徹	-	-
消化器外科	午前中	蒔田 富士雄	-	-	蒔田 富士雄	-
放射線科	午後3時~	-	松浦 正名	-	-	-
緩和ケア科	午後	-	-	小林 剛	-	小林 剛

対象者：原則として患者さま本人、患者さまの同意を得た家族
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室(直通) 費用：30分毎に5,250円

診療方針

- 1.がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
- 2.結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
- 3.重症児（者）の療育については、各職種の連携を密にし、チーム医療の充実を図る
- 4.PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

看護の理念

患者さまの立場にたった最善の看護

- 1.患者さまの生命および人権を尊重します
- 2.安全で適正な看護に努めます
- 3.思いやりと真心をこめて看護します
- 4.患者および家族の皆様と共に考える看護に努めます
- 5.知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

患者さまの権利

- 1.最善の医療サービスを受ける権利
- 2.人格・人権を尊重される権利
- 3.知る権利
- 4.自己決定権
- 5.プライバシーを保護される権利

外来診療担当医表（平成24年4月1日～）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	オオツカ 敏之	5診	イマイズミ 今泉 淳	5診	オオツカ 敏之	5診	ヤマザキ 山崎(群大肝臓)	5診	コジャアキコ 古謝亜紀子
呼吸器内科	6診	タケイ 武井 宏輔(AM)								
	7診	サイトウ 斎藤 龍生	7診	イイジマ 飯島 浩宣	7診	サイトウ 斎藤 龍生	7診	トミザワ 富澤 由雄	7診	ヨシノ 吉野 麗子
	8診	ヨシイ 吉井 明弘	8診	クワコ 桑子 智人	8診	ツチヤ 土屋友規子	8診	カミデ 群大(上出)	8診	ワタナベ 渡邊 覚
血液一般内科	3診	マワタリ 馬渡 桃子	3診	サワムラ 澤村 守夫	3診	マツモト 松本 守生	3診	マツモト 松本 守生	3診	サワムラ 澤村 守夫
	4診	イソダ 磯田 淳	4診	サイトウ 斉藤 明生	4診	サイトウ 斉藤 明生(AM)	4診	イソダ 磯田 淳	1診	ユズリハ 杠 明憲(新患のみ)
					6診	マワタリ 馬渡 桃子(PM)	6診	ユズリハ 杠 明憲(PM)		
消化器外科	2診	マキタ 藤田富士雄(AM)	6診	コバヤシ 小林 光伸			2診	マキタ 藤田富士雄	4診	トツカ 戸塚 統(AM)
呼吸器外科					6診	カワシマ 川島 修(AM)	6診	カケガワ 懸川 誠一(AM)	6診	カワシマ 川島 修(AM)
乳腺甲状腺			2診	ヨコタ 横田 徹	2診	ヨコタ 横田 徹			2診	ヨコタ 横田 徹
	2診	ヨコタ 横田 徹(PM)								
緩和ケア	6診	コバヤシ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ 小林 剛(PM)
整形外科									6診	ワタナベ 渡辺 秀臣(第一PM入院のみ)
精神腫瘍科	外来 指導室	マジマ 間島 竹彦(PM)								
放射線科	放	マツウラ 松浦 正名								

新患・再来予約外 受付時間 8時30分～11時00分
 ※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

編集後記

猛暑・酷暑にオリンピック視聴で寝不足が追い打ちをかけたこの夏、いかがお過ごしでしたか？オリンピックも過去最多の38個のメダルを獲得し、これは総メダル獲得数順位で世界の6番目であり、思っている以上に日本は世界でも有数のスポーツ大国です。ロンドンオリンピックで感動した選手は誰ですか？という質問に対し、卓球の「福原愛」と答えた人が最も多かったそうですが、心理学者に言わせると、幼い時からの愛ちゃんを知っているため、自分の身内のように感情移入し応援、観戦したからだと言うことです。それにしても、本当に暑くて寝不足の夏だったなあ～
 (J・H)

独立行政法人 国立病院機構西群馬病院

〒377-8511 群馬県渋川市金井2854 TEL 0279-23-3030 FAX 0279-23-2740 <http://www.hosp.go.jp/~wgunma>